

分野（１）

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び

事業内容の改善方法に関する調査研究

④ぜん息キャンプの効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究

研 究 課 題 名： 喘息キャンプの効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究

調査研究代表者氏名： 新 宅 治 夫

評価コメント

○唾液コチニンの測定が受動喫煙の状況をチェックできる有用な検査として示したことを評価する。
○唾液中のコチニン濃度が受動喫煙の優れた客観的マーカーであることが証明できたのは一つの研究成果である。eNO濃度が受動喫煙の有無と関係ないとすれば、受動喫煙ぐらいの程度であれば、少なくとも非アトピー性喘息にはあまり影響ないと考えてよいか疑問である。
○唾液中のコチニンの煙草の煙に暴露された時の時間的な変動はどのようなのであろうか。尿中コチニンとの関係はいかがであらうか。このあたりの研究が必要なのではなかろうか。
○キャンプの効果を呼気中NO濃度の変化から推測している点は評価できるが、呼気NO計が本来は室内での測定することを想定しているとする、キャンプ中などの屋外に近い環境で測定した場合に、大気中NO濃度によるどの程度反応するかなどの基礎的データが必要であらう。
また、コチニン濃度は、尿中コチニン濃度の場合にはクレアチニン補正を行うと思うが、唾液中コチニン濃度の場合には、受動喫煙や喫煙状況をどの程度まで精度よく評価できるのか、また指導に使用する場合に、どの程度までの精度が必要であるのか等の検証が必要であらう。
○宇理須らの研究と同様にキャンプの効果をeNOの値で評価している。また気道過敏性の評価としてeNOと唾液中のコチニン濃度で評価しているが、唾液は採取は条件、たとえば食物、ストレス等によるその分泌量が異なり、当然そこに含まれる代謝産物の濃度も変わってくる。小田嶋らはこれも濃度の変動が大きい尿中産物を測定しているが、これはクレアチニン値で補正しているもので、問題にならない。唾液中の産物の測定には、唾液中のアルブミン濃度で補正する方法もあるのでこのあたりの測定法を今少し検討してみる必要があるのではないか。
○アトピー性喘息も非アトピー性喘息も基本的な病態は慢性の気道の炎症性疾患であると考えられている。もし、eNOが気道の炎症の程度と相関があるならば、eNOの濃度にアトピー性喘息と非アトピー性喘息の間でなぜそのような乖離が出てくるのか疑問が残る。
○非アトピー性喘息と受動喫煙の関係について、もっと症例数を増やして、さらに検討を重ねると興味ある結果が得られるかもしれない。
○あまり斬新的な研究とは思われない。